

高度封じ込め施設内で実施されている作業内容に関する報告

2018年11月15日

ウイルス第一部

第一室長 下島昌幸

部長 西條政幸

○ニパウイルス感染症の診断システム（抗体検出法）の開発と評価

目的：感染性のあるニパウイルスを用いて、より精度の高い抗体検出法を開発・整備すること

実施期間：2017年11月～

作業内容：ニパウイルスをハムスターに接種してニパウイルスに対する免疫を誘導し、検査に必要となる抗体陽性血清および陰性対照血清を得た。

今後：抗体検出のための間接蛍光抗体法や ELISA 法、遺伝子検査法等を順次整備する。

○SFTS ウイルスを感染させたサルに対する抗血清とファビピラビルの併用効果

目的：重症熱性血小板減少症候群（SFTS）の動物モデルではファビピラビル（抗インフルエンザ薬）および抗ウイルス抗体がそれぞれ単独で治療効果を示す可能性が示唆されている。ファビピラビルと抗 SFTS ウイルス抗体製剤の併用効果を調べる。

実施時期：2018年3月～

作業内容：抗体製剤単独による治療群、抗体製剤とファビピラビル治療薬の併用による治療群での治療効果を調べる研究が実施された。

今後：現在、それぞれの効果を解析している。